



バラの育て方カレンダー

4月 上旬にワイルドローズ開花(モッコウバラ等)
新芽・新葉の病害虫防除
下旬からバラ開花
一番花開花

5月 **一番花の花がら取り**
追肥(下旬)1株当り醗酵油粕 200g
病気予防のため薬剤散布をします。

6月 **二番花開花**
二番花の花がら取り
追肥(下旬)追肥1株当り醗酵油粕 200g
シュート処理春に出たシュートの処理を行います。
病気予防のために薬剤散布をします。

7~8月 **蕾取り** 夏の暑さで樹形を消耗させないために蕾を取ります。
散水 夏の暑さで樹形を消耗させないために散水を行います。

9月 **秋の剪定(上旬)** 全体の3分の1を剪定全ての枝を剪定
樹勢の弱い株は弱めに剪定します。
追肥(下旬)1株当り醗酵油粕200g 暖効性固形肥料8粒~10粒

10月 **一番花開花**
一番花の花がら取り
追肥(下旬)1株当り醗酵油粕200g
病気予防のために薬剤散布をします。

11月 **二番花開花**
秋の二番花の花がら取り
追肥(下旬)1株当り醗酵油粕 200g
病気予防のために薬剤散布をします。

12月 **つるバラ剪定**
2年生苗~
誘引をほどこ古い枝、枯れ枝等を剪定します。
枝先は、充実した枝の先端を鉛筆の太さ程度のところで切り
誘引します誘引するときは、出来るだけ枝を水平に誘引します。
1年生苗
伸ばした枝を、フェンス等に誘引します。
枯れ枝等があるときは剪定します。
誘引するときは、出来るだけ枝を水平に誘引します。

1月 **冬の剪定**
全ての枝を剪定細い枝は切り落とす
樹勢の弱い株は弱めに剪定します。
薬剤散布 石灰硫黄合剤

2月 **冬の剪定**
全体の3分の2を剪定、全ての枝を剪定します。
細い枝も全て切り落します。樹勢の弱い株は弱めに剪定します。
寒肥(春に綺麗なバラを咲かせる為に重要な作業です。)
1株当たり醗酵油粕300g 緩行性肥料8~10粒
乾燥防止・病気や雑草の発生を抑える為のマルチング(敷ワラ等)作業
薬剤散布 マシン油乳剤

3月 **薬剤散布**
殺虫剤・殺菌剤を1500倍で散布
新芽に入る病気や害虫の予防のため



モッコウバラ
年に1度春1番に咲くバラ
白と黄色の種類があります。



プリンセスミチコ
ハイブリッド種とツルバラ種があります



正雪
大輪種の強香りです。



バレンシア
大輪種の強香りです。



ピエールドウロンサール
香りが良く人気のあるツルバラです。
下向きに咲く性質の花です。
他に赤や白色の品種があります。



2月上旬の冬季剪定
夏剪定よりも、やや強めに行う

《地植え、四季咲きハイブリッド・ティー系(HT)・フロリバンダ系(FL)の場合》

* 鹿児島県鹿児島市錦江湾公園での管理作業の基準です。

バラの植 え 付 け 作 業

☆植え付け面積

1㎡当たり1本

出来るだけ広い場所が好ましいです。

☆植え付け場所

- ①日当たりの良い場所
- ②風通しの良い場所
- ③適度に保湿性を持った土

☆植え付け時期

大苗・・・1月～2月上旬(寒い時期)

新苗・・・4月～6月

植え付け時に必要な肥料(元肥)

- ◎牛ふん(完熟) * 5～10Kg程度
- ◎骨粉 * 200g程度
- ◎IB化成(緩効性) * 200g程度
- ◎腐葉土 * 5～10kg

☆植え付け方法

- ①大苗の場合はバケツ等に水を張り充分に吸水させます。
1時間以上、植え付け日の前日から吸水させるのも効果的
殺菌剤(水和剤1500倍)を作って吸水させるのも効果的
長時間の吸水は窒息の原因になる為
根を半分水に浸けるなど注意が必要
- ②広く・深めに穴を掘り、掘りあげた土に元肥を良く混ぜます
- ③元肥を混ぜた土を半分程度埋め戻し
大苗の場合は、根を広げるようにして
ポット苗の場合は、ポットから出した状態のまま
根を崩さないように植え付けます。
- ④苗の接木部分が見えるように植え付けます。
接木部分が土の下に隠れてしまうと、
シュートが出にくくなったり、窒息の原因になります。
2回位に分けて、水を入れながら埋め戻します。
- ⑤埋め戻したら、しっかり**支柱を立てます。**
1週間に2回程度、散水します。

薬 剤 散 布 (病害虫防除)

バラの栽培では、重要な作業です。出来るだけ葉が落ちないようにする為には、定期的な防除が必要です。

薬剤は、野菜や、果物に使われる、一般的な物で特別なものでは、ありません。

☆病気

バラの代表的な病気は、黒点病です。
葉に黒と黄色の斑点ができ、下葉から落ちていきます。
予防の薬剤散布を心がけ、予防的な防除が必要です。
その他に、うどん粉病や、べと病などがあります。
病気の予防に使う薬剤は、殺菌剤です。

☆散布の時期・種類

時期・・・4月～11月・月に2回以上
種類・・・2種類の薬剤を組み合わせ使用
殺虫剤A+殺菌剤A
殺虫剤A+殺菌剤B
殺虫剤B+殺菌剤A など

☆害虫

コガネムシ・ダニ・バラクキバチ・
チュウレンジハバチ・アブラムシなど
害虫の防除に使う薬剤は、殺虫剤です。

☆ポイント

病気・害虫に適した薬剤を使用する
予防散布に重点を置く
散布は、霧の状態で行う
散布する際は、気温の低い早朝か夕方に行う。
薬剤の種類・使用濃度には細心の注意が必要

例

	1回目	2回目	3回目
黒点病	サプロール	ベンレート	オーソサイド水和剤
害虫等	スミチオン	オルトラン	カスケード
		木酢液 (薬剤を使用せず)	木酢液 (薬剤を使用せず)

貼着剤を利用するのも効果的です。

5月・7月はダニの発生する時期にはダニ剤を散布するのも効果的です
木酢液を使用して、病気や害虫の発生しにくい環境を作る事も大切です
木酢液を使用する時は薬剤で病気・害虫を抑えてから、定期的(1週間に1回)に散布する
1月・2月は石灰硫黄合剤を月1回程度散布(気温の低い日)

